

令和3年度京都府立盲学校第1回学校運営協議会

日時 令和3年7月1日(木) 13時30分～15時20分
場所 京都府立盲学校花ノ坊校地 多目的教室
出欠 出席委員8名、欠席委員1名

(1) 学校運営協議会について(校長)

学校評議員会議から学校運営協議会への移行に伴い、学校運営協議会の設置目的、機能、組織等について説明の後、全国の盲学校の状況や本校の抱える課題等について報告を行いました。

(2) 委嘱状の交付

(3) 出席者自己紹介

委員8名、事務局5名が自己紹介を行いました。

(4) 会長選出

委員の中から、会長、副会長が選出されました。

(5) 協議

①令和3年度学校経営計画について(校長)

令和3年度学校経営計画について、説明、提案を行いました。主な内容は以下のとおりです。提案、承認された学校経営計画は[こちら](#)を御覧ください。

・本校は、これまで、幼小学部、中学部、高等部の3学部で運営していたが、令和3年度より幼小中学部と高等部の2学部体制とし、視覚支援センターを強化し、校内外を支援する体制を整えた。

・本年度は、幼稚部の再開と幼児教室の開催、新学習指導要領を踏まえた授業改善、ICTを積極的に活用した学習の推進、職場開拓等を展開している。

・視覚支援センターの機能強化により、校内外への支援を充実させるとともに、ICTを活用し交流学習や共同学習にも力を入れていく。

②令和3年度各学部教育課程について(各学部担当総括主事)

各学部について、つきたい力、大切にしていること、指導方針等の説明を行いました。

③学校評価アンケートについて(副校長)

原案を基に、生徒向け、保護者向け、教職員向けのアンケートの内容について説明するとともに、2学期末に実施する予定であることを報告しました。

④令和3年度学校経営計画及び各学部教育課程への意見・承認について

①～③について、各委員からは、幼児児童生徒数減に伴う学校運営や視覚支援センターの役割、ICTの活用、進路の状況、働き方改革に関わる教員の状況等への質問や意見が出され、終了予

定時刻を超えるほどの活発な協議となりました。

【主な意見等（各委員）】

- ・幼児児童生徒数の減少は、時代のニーズに合っているかどうかということが関係しているのではないかと。時代のニーズを知るという意味では、卒業生が、現在、どのような職業に就き、どのような生活をしているかを知ることが大きな一歩となる。
- ・コロナ禍も、その他の災害も、いつ起こるか分からない。これらの対応を教えることも、社会へ出て生きる方法を知ることになる。
- ・今後、視覚障害者にとっては、ICTの活用が必須になると思う。そのなかでも、コミュニケーションが大切であると、常に教員が頭の中に入れて指導を行われることをお願いしたい。
- ・インクルーシブ教育ということで、地域に通っている子どもたちが2倍に増えたと報告を受けたが、その子供たちの支援に対して、視覚支援センターがこれから果たしていく役割は大きい。経営計画にもあるようなコミュニケーション能力、ICTを活用する能力を身に付け、視覚障害がありながらも社会で生活をしていく力が必須となるので、視覚支援センターは頑張りたい。
- ・学校経営計画の前年度の成果と課題のところに「学部間連携」と書いてある。これについては、幼児児童生徒数が減り、様々なことを効果的に出すための試みとしての取組と思うが、2学期にどのようなになったか、中間報告をお願いしたい。
- ・京都府には、京都ロービジョンネットワークがあるが、そこで盲学校からの発信も強めていくと力になると思う。地域の社会的な支援も含めて取組をしていくと、盲学校の役割、盲学校の位置づけが変わっていくと思うので、そのような試みをお願いしたい。
- ・職場開拓について、重複障害生徒1名に対して15件ぐらい見学に行かれている。本当に素晴らしい活動を先生方はされていると思う。
- ・重複障害がある子で、在学中に点字をマスターできた。ただ、盲学校を卒業したら点字はそこで終わってしまう。せっかく習得して楽しんで自分の発言力として点字がマスターできたのに卒業したら生かせるところがない。

以上、協議の後、学校経営計画について、一同拍手をもって承認されました。

また、最後に、会長より、今後の熟議について、次のように提案され確認しました。

◆次回は、学部間の連携がどのように行われているか、ICTの活用が盲学校でどのように行われているか等の報告を受け、熟議をしていきたい。

なお、今後、卒業生の進路の状況で、職場開拓の取組など具体的な報告についてもお願いしたい。

⑤その他 次回会議の日程等（副校長）

（6）閉会挨拶（校長）